

石油暖房機FF床暖ヒーター

(密閉式石油ストーブ)

工事説明書

品番 OK-PU670F

ご販売店さま用

この工事説明書は、工事作業者が正しく安全な工事をする為に必要な手引書です。設置工事の前に、この工事説明書をよくお読みのうえ正しく据え付けてください。なお、この工事説明書は取扱説明書と一緒に必ず保存してください。(設置工後、お客様にお渡しください)

安全上のご注意(必ずお守りください)

●施工される人への危害・物的損害を未然に防止するため、お使いになる人や他の人への危害・物的損害を未然に防止するため、設置工事において必ずお守りいただくことを次のように説明しています。

■表示内容を無視して誤った工事をしたときに生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。

- 警告** この表示の欄は、「作業を誤った場合に作業者が、またはその作業後の不具合によって使用者が死亡または重傷などを負う可能性、または火災の可能性が想定される」内容です。
- 注意** この表示の欄は、「作業を誤った場合に作業者が、またはその作業後の不具合によって使用者が傷害を負う可能性や物的損害の発生が想定される」内容です。

■お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。

- この絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。
- この絵表示は、必ず実行していただく「指示」内容です。

警告

据付けや移動は販売店へ依頼すること

お客様ご自身で据付工事され、不備があると感電や火災の原因になります。

外れ危険・点検必要

給排気筒を確実に接続し、しっかり固定してください。風、揺動、衝撃などで外れたりすると運転中に排ガスが室内に漏れて危険です。

集合煙突利用の禁止

排ガスが室内に出たり、異常燃焼を起こしたり結露水が凍結したりして、事故のおそれがあります。

床下給排気禁止

必ず屋外に排気してください。排ガスが室内に漏れて、危険です。

変則工事は絶対にしない

- 給排気筒をつけない
- 給排気筒を屋外に向けて上
- 給気ホースを使わずに
- 配気管だけ使う
- 排気管接続部をアルミ分解・改造して使う
- 排気管接続部をアルミ分解・改造して使う

このような変則工事をすると、排ガスが室内に出て、一酸化炭素などが発生し、中毒になるおそれがあります。

給排気筒トップ閉そく危険・点検必要

積雪が多いときに給排気筒トップの周りが雪でふさがれない場所に設置してください。また、板などによる「雪囲い」は、給排気の妨げになるのでおやめください。運転中に排ガスが室内に漏れて危険です。

屋内給排気禁止

必ず屋外に排気してください。排ガスが室内に充満し、危険です。

給気・排気部材は「ナショナル石油暖房機FF床暖ヒーター」専用のものを使う(新しいものを使ってください)

異常燃焼や排ガス漏れの原因になります。

火災予防条例、電気設備に関する技術基準、電気工事は指定の工事に依頼するなど法令の基準を守る

製品、油タンク、給排気筒の据付けは、規則を守らないと火災の原因になります。

コンセントや配線器具の定格を超える使いかたや交流100V以外での使用はしない

たご配線などで定格を超えるると発熱による火災の原因になります。

ガソリン厳禁

ガソリン、混合油(農機具用)など揮発性の高い油は、絶対に使用しないでください。灯油(JIS1号灯油)を使用してください。

この工事説明書、別売部材の説明書に従って工事をする

守らなかった場合、予想しない事故が発生するおそれがあります。

電源コード、電源プラグを破損するようなことはしない

傷付いたり、引っ張ったり、加工したり、排気管などの高温部に触れたり束ねたりしない。傷んだまま使用すると感電・ショート・火災の原因になります。

注意

次の場所には据付けない

- 火災や予想しない事故の原因になります。
- 水平でない場所、不安定な場所
- 不安定な物を載せた棚などの下
- 可燃性ガスの発生する場所又はたまる場所
- 付近に燃えやすいものがある場所
- 煙突、窓などとの付近で差障りとなる場所
- 温室、飼育室などのいない場所

油タンクとの距離を離す

油タンクは機器より2m以上離して据付けるか、防火壁を設けてください。

- 屋内用据置式の油タンクは不燃材の床の上に据え付けること。
- 屋内タンクをご使用の場合、油タンクとストーブとの距離を2m以上取るため別売の送油ホース(OK-B07K 長さ2.5m)をご使用ください。

本体が壁に固定できない場所には据付けない

地震のとき転倒し、火災の原因になることがあります。

給・排気管の延長は長さ3m、曲がりは3ヵ所以内にする

異常燃焼や排気の結露による凍結・水漏れの原因になります。

手袋などの保護具を着用して工事を行う

金属切断面などでけがをするおそれがあります。

可燃物との距離を離す

15cm以上、100cm以上、30cm以上、150cm以上

- ストーブ側面と可燃物は30cm以上離してください。遮熱板を取り付けると15cmまで近づけることができます。保守・点検のため、ストーブ右側面と壁間は30cm以上離してください。
- 可燃物(木壁、合板壁、ふすまなど)から上図に示す距離をとってください。
- 付属の置台を据付面にのせてご使用ください。

送油ホースは屋外で絶対に使用しない

(極端に曲げた状態での使用もしない) びり割れにより油漏れの原因になります。

- 屋外は銅、鋼管を使用してください。
- 送油ホースは定期的に点検し、2年に1度は交換してください。

改造使用の禁止

改造して使用しないでください。またストーブや給排気筒に床暖房用の熱交換器などを取り付けしないでください。

必ず試運転を行い、安全を確認する

油漏れ、排気漏れ(臭気)、燃焼の異常などがないか確かめてください。お客様と立ち会いで運転してください。

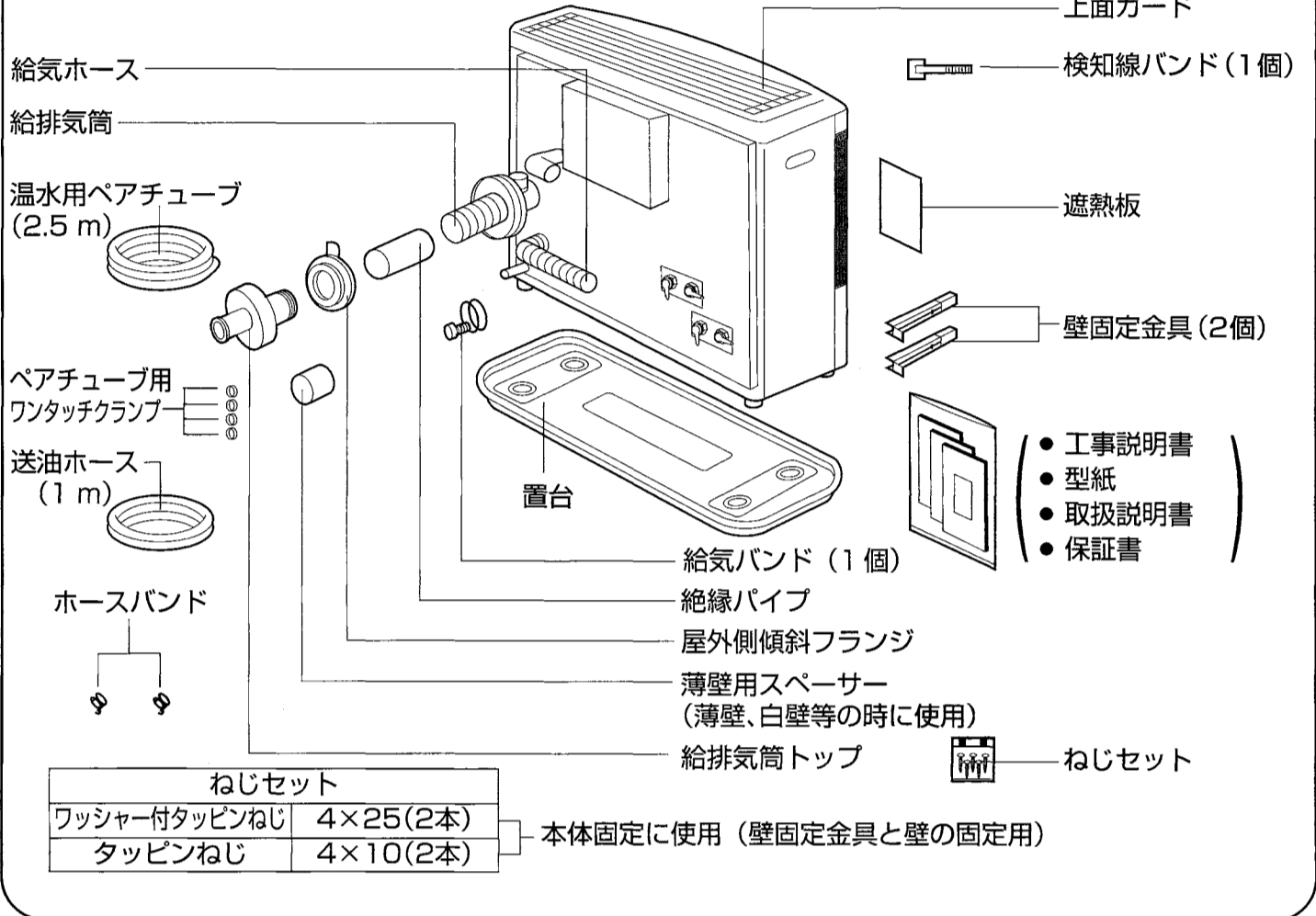
工事終了後給排気筒の点検をする

取り付けが終わったら、もう一度点検してください。次のような取り付けは危険であったり、不完全燃焼をおこすおそれがありますので、必ず修正してください。

可燃物近接禁止	接続部のゆるみ点検	下り勾配のごと
3m 3曲がり以下のごと	排気管は壁から2cm以上離れていること	危険物近接禁止
給排気筒トップと開口部との距離は離す	危険物近接禁止	

1. 開こん

段ボール箱からストーブを取り出し、給排気筒トップをはずします。次にパッキン材、テープなどを取り除き、付属品を確認してください。



油タンクの据付け

- 油タンクは本体と同一床面に相当する高さか、右図の寸法に従って据付けてください。
- 屋外タンクの場合
 - 屋外側の送油配管については販売助成物の「据付工事部材マニュアル」に従って施工してください。
 - 銅管、銅管保護パイプがメタルラス張り、ワイヤラス張りの壁を貫通する場合、壁貫通部に絶縁テープ等を巻いて電氣的絶縁を施してください。

送油ホースの接続

- 送油ホースを油タンクの接続口(屋外タンクの場合は壁付コック等の接続口)に十分差し込み、ホースバンドで固定してください。送油ホースの先端に灯油をつけると挿入しやすくなります。
- 油タンク側のバルブを少し開け、送油ホース先端まで灯油が確実に流れてくることを確認してください。送油ホース内に空気溜りがあると灯油が流れず点火不良の原因になります。空気抜きは油タンク側から、送油ホースを順次たぐっていくとできます。床に灯油をこぼさないように受皿等を用意し、慎重に行ってください。
- 送油ホースを本体の接続口の根元まで十分差し込み、ホースバンドで固定してください。
- 送油ホースを途中で山形になったり、もつれたりしないよう整えてください。
 - 屋内銅配管の場合は、別売のホースニップル(OK-B08K)を使用して送油ホースに替えてから、本体に接続してください。

3. 給排気筒(管、ホースなど)の取付け

給排気筒の取出し場所の選定

- 給排気筒の標準取付け寸法
 - (正面) 60cm以上
 - (側面) 60cm以上
- 給排気筒は外気に通じる壁または窓に取り付けてください。
 - 床下に排気しないでください。
 - 次の場所には給排気筒を取り付けしないでください。

- 給排気筒の近くに危険物や障害物のあるところ
- 人通りの激しいところ
- 積雪の多い地域では、雪や風の吹きだまりになるような場所やつらの真下になるような場所
- 壁の中に電気配線、ガス・水道配管、集合煙突の利用

※障害物に囲まれているような場所に設置することは避けてください。性能に影響を及ぼします。

※給排気筒は、他の燃焼機器の排気筒から1m以上離して設置してください。

専用部材の使用

給排気筒は、必ず付属の「標準給排気筒セット」および別売品「ナショナル石油暖房機FF床暖ヒーター各種延長工事部材」の新しいものを使用してください。長期間使用したものは劣化していたり、異物が詰まっている場合があります。

- Oリングの種類及び呼び用途別：運動用Oリング
- 材料別：4種D
- 呼び番号：P39
- 給排気筒の型式の呼び：PL-11

標準給排気方式の場合

標準給排気方式(壁置箱)は付属品の「標準給排気筒セット」(標準対応壁厚135mm~260mm)を使用した取付け方式です。

- 標準給排気方式以外にも設置場所によって、別売部材で窓などを利用したり、排気管と給気ホースを延長したり、厚壁や薄壁に対応して取り付けることができます。
- 取り付けた後は別売部材に同ごんの説明書にしたがってください。
- 給排気の延長限度は3mで曲がりは3ヵ所以内です。
- 排気管外れ検知装置を正しく働かせるために
 - 給排気筒の端子台に必ず排気管検知リード線を接続してください。
 - 排気管の接続部には、排気管固定金具を取り付け、確実に電流が流れるようにしてください。
 - 特に延長給排気筒の設置では、販売助成物の「据付工事部材マニュアル」に従って、接続部の確認を行ってください。

1. 型紙(工事説明書の裏面)の貼付

- ストーブを据付ける位置の壁に接着テープなどで貼り付け、給排気筒取付け穴位置を決め、印を付けてください。(穴位置が決まれば、型紙をはがしてください。)

2. 穴あけ(標準対応壁厚135mm~260mm)

- 印を付けた位置に直径85mmまたは直径70mmの穴をあけてください。ただし、直径70mmの穴をあける場合は、5度下りかりの穴をあけてください。
- 穴をあける時の振動により、外壁が大きくなる場合がありますので、ドリルの先端が屋外に出たあとは、屋外より穴をあけてください。

3. 給気ホースの接続(給排気筒側)と排気管検知リード線の接続

- 給排気筒と給排気筒トップに分離してください。
- ストーブの排気管に仮止めしてある抜け止め金具を取り外してください。
- 給排気筒の排気口側をストーブの排気管に差し込み、抜け止め金具で給排気筒が抜けないようにしてください。
- 給排気筒を穴の位置に合わせてください。
- 給気ホースを給排気筒の給気口側に差し込み、給気バンドで固定してください。使用しない給気口には必ずキャップと給気バンドを取り付けておいてください。
- 給気ホースが排気管に触れないように注意してください。
- 排気管検知リード線を給気ホースにそわせ、検知線バンドで固定し、給排気筒の端子台に接続してください。
- 排気管検知リード線が排気管の高温部に触れないようにしてください。

4. 排気管・給排気筒の調節

- 排気管のスライドパイプを、壁穴の位置に合うように適当な長さ引っぱり出してください。このとき、スライドパイプの刻印(ピード)が出ない程度の長さ(最大45mmまで)にしてください。
- スライドパイプを抜く時は、排気管のスポット位置とスライドパイプの軸方向の刻印を合わせて抜いてください。
- 給排気筒の取付け面と本体後面の壁とが離れている場合(長押し、出窓など)は、屋内側傾斜フランジを回転させ、壁面の位置に合わせてください。設置した状態で排気管の本体側接続部に余分な力がかからないように注意してください。

5. 絶縁パイプのセット

- 絶縁パイプを壁の厚さに合わせ、ノコギリ等で壁の厚さより長くなるように切断してください。
- 切断した絶縁パイプを給排気筒にかぶせ、屋内側傾斜フランジに固定してください。
- ラス張りの壁貫通時には、絶縁パイプを必ずセットしてください。

6. 本体の移動

- 絶縁パイプといっしょに、給排気筒を壁貫通部穴へ差し込むように本体を壁面に寄せてください。
- 屋内側傾斜フランジの「屋内」が上にくるように回してください。(逆に取り付けたと雨水が室内に入り込むことがあります)

7. 給排気筒トップの固定(壁厚135mm~260mmの場合)

- 屋外側傾斜フランジを給排気筒トップに挿入してください。屋外側傾斜フランジには、シールパッキンが貼り付いてあります。
- 屋外側より絶縁パイプの中に給排気筒トップのねじ部を挿入し、給排気筒トップを右に回し、給排気筒に締め込んでください。
- 屋外側傾斜フランジの「屋外 上」を上にして、給排気筒トップをしっかり締め付けてください。
- 屋内側・屋外側傾斜フランジと壁面に隙間があると、排ガスが隙間から室内に入り、臭いの原因になります。

給排気筒トップの固定(壁厚135mm以下や外壁が白壁や汚れやすい色・材質の場合)

- 給排気筒トップに薄壁用スペーサー、屋外側傾斜フランジの順に挿入し、上記の手順で給排気筒トップをしっかり締め付けてください。

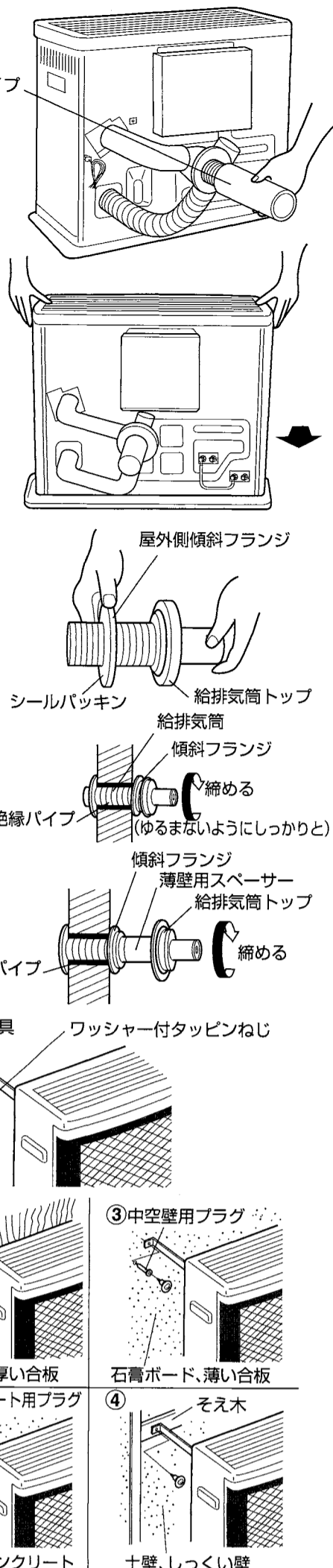
8. 壁固定金具でストーブを壁に固定(本体の左右2ヵ所)

- 付属の壁固定金具を背面カバー横の長穴(両側)に引っかけてください。長穴は4個ありますが、1つ選んでください。
- 木または厚い合板の壁に固定する場合は、壁固定金具を用いてねじで直接壁に固定してください。
- モルタル、コンクリートの壁に固定する場合は、コンクリート用プラグ(市販品)を壁に打ち込み、壁固定金具を用いてねじで固定してください。
- 石膏ボード、薄い合板など中空壁に固定する場合は、中空壁用プラグ(市販品)を壁に打ち込み、壁固定金具を用いてねじで固定してください。
- 土壁・しっくい壁などのように壁固定金具が直接取り付けられない場合は、壁にそえ木をして壁固定金具を取り付けてください。

9. 室温センサーの移動

設置場所や周囲の状態によっては、室温センサーの温度と室温に差が生じたりして好ましくない場合があります。(本体のふく射を受けたり、直射日光の当たる場合など)

- 本体背面の室温センサーを取りはずし、ねじなどで壁、柱などに取り付けてください。
- 室温センサーのリード線が排気管などの高温部に触れたり、リード線を踏んだり、引っかけたりしないように配線してください。



4.床暖房パネルの敷設と配管方法

床暖房パネルの敷設

配管ができるだけ短くなるように床暖房パネルの敷設場所を設定し、床暖房パネルの取扱説明書をよく読んで据付けてください。床暖房パネルは OK-PU670F 専用のもの (OK-UB3SPA、OK-UB3PPA) をご使用ください。他の放熱器は使用しないでください。

床暖房パネルの接続量数	機種名	1 系統最大敷設量数	2 系統最大敷設量数	ストープパネルの総長 (約)
	OK-PU670F	4.5 畳	3 畳 +3 畳	10 m

- ※新しい床暖房パネルをご使用になることをおすすめします。
- 現在ご使用中の床暖房パネルをそのままご使用になる場合
- 水アカやゴミが床暖房パネル内に付着しており、温水が流れにくかったり、運転中にストープ本体の温水回路つまり、故障の原因になることがあります。
 - 必ず洗浄用ポンプなどを使って、床暖房パネル内を洗浄してから継続してください。

循環水について

- 循環水には、必ずナショナル純正床暖房用循環液 (OK-UB2A) をご使用ください。ナショナル純正循環液は、凍結防止の他に床暖房に使用される機器 (ストープ・床暖房パネル・配管部品等) の防錆効果、防菌効果を目的に作られた循環水です。この循環液を使用しない場合、ストープ本体および床暖房パネルの温水回路がつまり、故障の原因になることがあります。
- 適正な濃度に調整してありますので、このまま器具に入れてください。
- 循環液の凍結温度は、 -20°C に調整されています。
- 循環水の必要量は下表を参照してください。

<循環水の必要量>	
名称	容量 L
器具本体 (OK-PU670F)	2.3
ソフトパネル 3 畳用 (OK-UB3PPA)	2.4
ベアチューブ 2.5 m の場合	0.25
合計	4.95

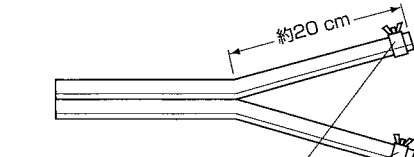
お願い

- 他社の防錆剤、不凍液 (特に車両用など) を使用したり、混合したりすると防錆効果が発揮されず機器の耐久性がそこなれたり、粘度があわずポンプの性能が十分発揮せずに、沸騰してしまうことがあります。
- 循環液は、常温では引火しませんが、加熱されたストープの上などにかかると着火することがあります。
- 循環液は、3 年を目安に入れ替えてください。(開封した循環液も含む)
- 循環液・補充液は飲用に用いたり、小さなお子さまの手の届くところに置かないでください。循環液・補充液はプロピレングリコールを含有しているため毒性があります。
- 設置時循環液を入れたのち、蒸発で水位が下がった場合は、必ずナショナル純正床暖房用補充液 (OK-UB3) をご使用ください。この補充液を使用しない場合、ストープ本体および床暖房パネルの温水回路がつまり、故障の原因になることがあります。

1 回路での配管のしかた (A 回路を使用してください)

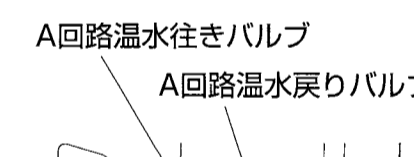
1 ベアチューブの接続

(1) 付属のベアチューブの端を約 20 cm 程離してください。



ワンタッチクランプ

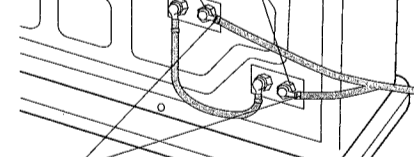
(2) 本体背面の A 回路の温水行きバルブ、温水戻りバルブにベアチューブを接続して、ワンタッチクランプで止めてください。



A 回路温水行きバルブ
A 回路温水戻りバルブ

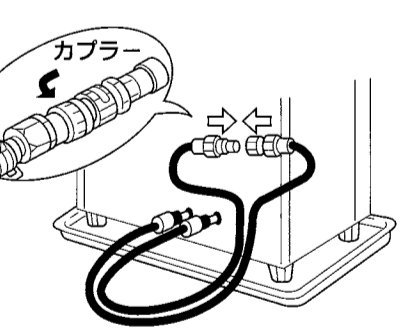
ワンタッチクランプ

(3) 床暖房パネルとベアチューブを接続し、ワンタッチクランプで止めてください。このとき、床暖房パネルの「行き」、「戻り」と本体の「行き」、「戻り」を合わせてください。

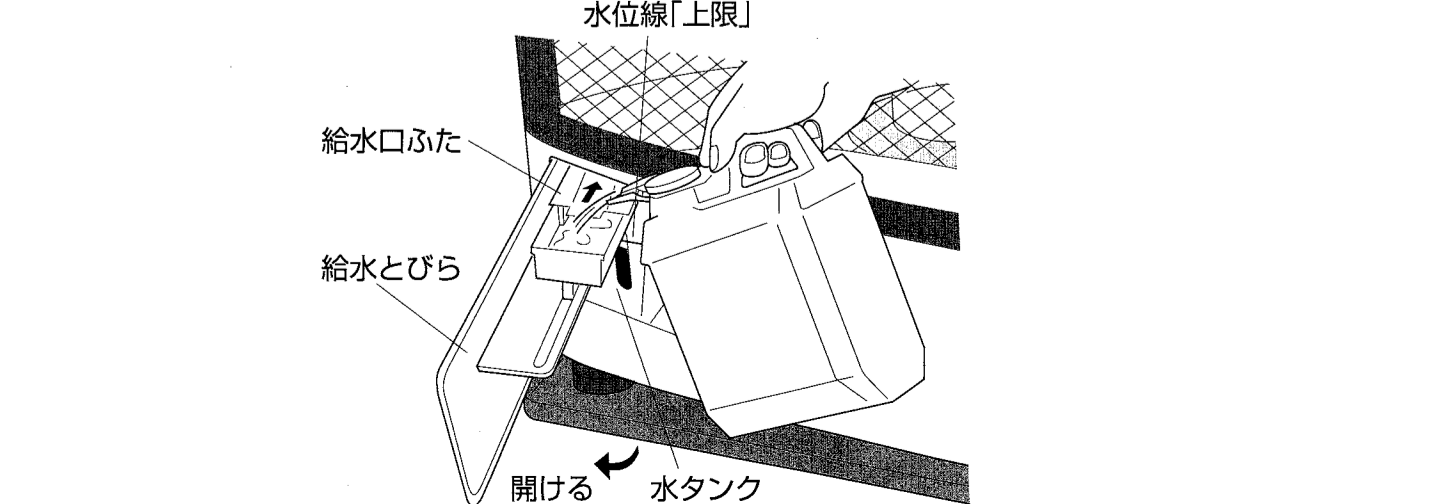



ワンタッチクランプ

- シーズン終了毎に取り外されるかたには、別売部材カプラー (OK-UBK) をおすすめします。このとき、カプラーの組み合わせ・ベアチューブの長さはパネルを外した後、本体側のカプラーどうしを接続できるようにしておいてください。取り外した時には、本体側・パネル側のカプラーをそれぞれ図のように接続しておいてください。接続しないとカプラーから水が漏れることがあります。
- 温水用ベアチューブは経年変化しますので、3 年に 1 度新しいものに交換してください。



- 2** 循環液の給水および空気抜き
- (1) ストープと床暖房パネルが確実に敷設されることを確認してください。
- (2) 本体背面の「B 回路」の温水行きバルブと温水戻りバルブが「開」の状態になっていることを確認してください。
「A 回路」の温水行きバルブと温水戻りバルブは「閉」にしておきます。
- (3) 本体正面の給水とびらを開き、給水口ふたをあけて、水タンクの水位線「上限」まで循環液を水タンクに入れてください。
床面やじゅうたんなどをぬらさないように、下にぞうきんなどを敷いて給水してください。



- (4) 本体の空気抜き (B 回路を使って、空気抜きを行います)
- ① 電源プラグをコンセント (交流 100 V) に差し込んでください。
- ② 運転スイッチは「切」のままで、「入タイマー」ボタンと「自動 / ひかえめ」ボタンを同時に 7 秒間押ししてください。同時に押していれば、 $^{\circ}\text{C}$ (2カ所) が点灯します。
- …「ピッ」とブザーが鳴り、表示部が  になります。
- ③ 「床暖房」ボタンを押してください。
循環ポンプ内に循環水が流れ、水タンクに戻ります。約 1 分たつと温水の循環する音が小さくなり、本体の空気抜きが完了します。
- ④ 再び「床暖房」ボタンを押すと、循環ポンプが停止します。

- 3** 床暖房パネルの空気抜き
- (1) 本体背面の「B 回路」の温水行きバルブと温水戻りバルブを「閉」にしてください。次に本体背面の「A 回路」の温水行きバルブと温水戻りバルブを「開」にしてください。
- (2) 「床暖房」ボタンを押してください。(約 1 分間運転する)
再び「床暖房」ボタンを押すと、循環ポンプが停止します。
循環ポンプが停止した状態で水タンクの水位「上限」まで循環液を入れてください。
- (3) (2) の操作を繰り返し、空気抜きが終わりましたら、配管経路から水漏れのないことを確認してください。
- (4) 運転スイッチを押して「入」にし、再度運転スイッチを押して「切」にする。
以上の操作で給水および空気抜きは完了です。

お願い

- 温水配管内の空気抜きが不十分ですと、温水の循環する音が大きくなる場合があります。十分に空気抜きを行ってください。
- 水位「上限」位置以上に循環液を入れしないでください。
- 床暖房パネルを 1 回路で使用する場合、使用していない「B 回路」の温水行きバルブと温水戻りバルブは必ず「閉」にしてください。「閉」にしないと温水の循環量が多くなり、水タンクでの流水音が大きくなります。また、床暖房パネル「A 回路」に温水が循環しにくく、暖まりにくくなります。

2 回路での配管のしかた

1 A 回路の配管

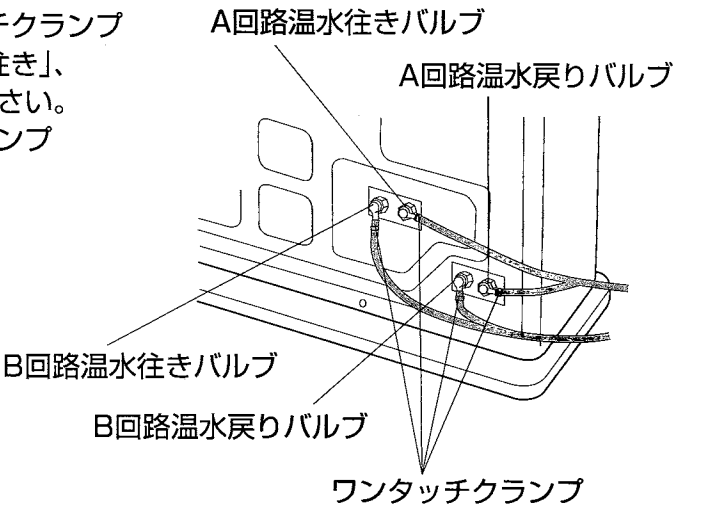
A 回路を使用し、「1 回路での配管のしかた」にしたがって配管、給水、空気抜きを行ってください。

2 B 回路のベアチューブの接続


(1) B 回路の温水行きバルブと温水戻りバルブが「開」になっていることを確認してください。

(2) B 回路のホースを取り外し、B 回路の温水行きバルブ、温水戻りバルブに別売部材のベアチューブ (OK-UB10P) を接続して、ワンタッチクランプで止めてください。

(3) 床暖房パネルとベアチューブを接続し、ワンタッチクランプで止めてください。このとき、床暖房パネルの「行き」、「戻り」と本体の「行き」、「戻り」を合わせてください。A、B2 回路の場合は、別売部材のワンタッチクランプ (OK-UB5) で止めてください。



A 回路温水行きバルブ
A 回路温水戻りバルブ
B 回路温水行きバルブ
B 回路温水戻りバルブ
ワンタッチクランプ


- 3** 床暖房パネル (B 回路) の空気抜き
- (1) 本体背面の「B 回路」の温水行きバルブと温水戻りバルブを「開」にしてください。次に本体背面の「A 回路」の温水行きバルブと温水戻りバルブを「閉」にしてください。
- (2) 電源プラグをコンセント (交流 100 V) に差し込んでください。
- (3) 運転スイッチは「切」のままで、「入タイマー」ボタンと「自動 / ひかえめ」ボタンを同時に 7 秒間押ししてください。同時に押していれば、 $^{\circ}\text{C}$ (2カ所) が点灯します。
- …「ピッ」とブザーが鳴り、表示部が  になります。
- (4) 「床暖房」ボタンを押してください。(約 1 分間運転する)
再び「床暖房」ボタンを押すと、循環ポンプが停止します。
循環ポンプが停止した状態で水タンクの水位「上限」まで循環液を入れてください。
- (5) (4) の操作を繰り返し、空気抜きが終わりましたら、配管経路から水漏れのないことを確認してください。
- (6) 本体背面の「A 回路」と「B 回路」の温水行きバルブと温水戻りバルブをすべて「開」にする。
- (7) 運転スイッチを押して「入」にし、再度運転スイッチを押して「切」にする。
以上の操作で給水および空気抜きは完了です。



5.試運転

標高・延長による調節について 標高が 500 m を過ぎ、総排気量が 1.5 m を過ぎの延長の場合、この調節は不要です。

- 設置条件等により、燃焼状態が変化します。より最適な燃焼状態でご使用いただくためにこの調節が必要です。
- 電源プラグをコンセント (交流 100 V) に差し込んでください。
- 次の手順にしたがって、標高の設定と延長給排気の設定をしてください。

- ① 運転スイッチを「切」にする。
- ② 「入タイマー」「自動 / ひかえめ」ボタンを同時に 7 秒間押す。
同時に押していれば、 $^{\circ}\text{C}$ (2カ所) が点灯します。

…「ピッ」とブザーが鳴る。デジタル表示部に  を表示。

- ③ 標高設定：  ボタンを押し、
- 表示：「0」…… 500 m 未満
表示：「5」…… 500 ~ 1000 m 未満
表示：「10」… 1000 ~ 1500 m 未満
- (ボタンを押すごとに表示が 0 → 5 → 10 → 0…と変わります)
- ↑ ↑
標高設定 延長設定
- のいずれかの標高に設定する。
- ④ 延長設定：  ボタンを押し、
- 表示：「0」…0 ~ 1.5 m 未満
表示：「1」…1.5 ~ 2.5 m 未満
表示：「3」…2.5 ~ 3 m 以下
- (ボタンを押すごとに表示が 0 → 1 → 3 → 0…と変わります)
- のいずれかの延長給排気長さに設定する。
- ⑤ 運転スイッチを「入」にし、再度運転スイッチを押して「切」にする。
- 以上の操作で調節完了です。

試運転

試運転はお客さまと立ち会いで行ってください。

- 1** 運転準備
- 油タンクに給油する。
 - 油タンクや送油管接続部から油漏れがないか確認する。
 - 定油面器セットレバーを 2 ~ 3 回押し下げる。
 - 温水配管接続部の水漏れがないか確認する。
 - 水タンクに循環水が入っていることを確認する。
 - 本体背面の温水行きバルブ、温水戻りバルブが「開」になっていることを確認する。
 - 使用していない温水行きバルブ、温水戻りバルブが「閉」になっていることを確認する。
 - ベアチューブに折れ曲がりやつぶれがないことを確認する。
 - コードホルダーを開き、電源コードをのぼし、電源プラグをコンセントに差し込む。
※電源コードは使用時には束ねないでください。

- 2** 運転
- (1) 運転スイッチを押し、床暖房ボタンを押す。
- 運転ランプと床暖房ランプが点灯。
- (2) 設定温度を室内温度より高くする。
ひかえめ運転の場合、室温が設定温度より 3 $^{\circ}\text{C}$ 高いと燃焼しません。
約 5 分後に燃焼を始めます。
はじめてお使いになるときは塗料の焼きつくにおいと煙が出るがありますが、熱交換器の塗装やパッキン類が焼けるためで、異常ではありません。
数 10 分で消えますので、換気をしながら運転してください。しばらく使用しますとなくなります。
床暖房パネルが暖まってくることを確認してください。
- (3) 運転スイッチを再度押す。
- 運転ランプが消え、消火します。
 - 本体内部の温度を下げるために、約 7 分間送風します。

廃棄するときの注意

ストープを廃棄するときは、必ず灯油を抜いてください。リサイクルの支障となります。